
不良に恋をする

peach-pit

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

不良に恋をする

【Nコード】

N2458D

【作者名】

peach-pit

【あらすじ】

普通の女子高校生木村真弓。そこに突然現れた不良の山本新。新に告白された真弓。なぜか新といるとドキドキしてしまう真弓。親友の弥生に聞くと真弓は新のことを・・・？

私今までの人生の中で、こんな恋をするなんて思ってもいなかった
だろう……。

あなたに出会うまでは……。

「おっはよー！」

私は元気よく教室に入った。

「おっはあ 真弓」

親友・弥生が小走りで言った。

「弥生どうしたの？なんかいつもより元気だね〜??」

「フフフ……。実わあ！ジャーン ダーリンが出っ来ましたあ〜」

「

弥生は自慢気にプリクラを見せてきた。

「え？マジ？！すごいー!!」

「でしょあ？」

「ってか、マジかつこいいんですけどお!!」

「惚れちゃだめだよッ！弥生のダーリンなんだから」

「分かってるって」

私は木村真弓。 高校2年生。

そして彼女は親友の中居弥生。 同級生。

私と弥生は学校内ナンバーワンの場所、草原にやってきた。
私は草の上で寝転ぶ。

「弥生はいーなあ」

「なんで？」

「すぐ彼氏捕まえてさ……。おいてっちゃうなんてひどいよ」
「ゴメンね……。出会っちゃったのは仕方ないんだよ」

私は飛び起きる。

「うつそー！怒ってなんかないよーだ」

「ひっどー！」

弥生は私の頭を

ポカポカ

叩く。

「ゴメンゴメン！悪かった！機嫌直して！！！」

私がそう言っていると、弥生は舌を出して

ニッ

と笑った。

「うつそー。弥生だって怒ってなんかないよーだ」

「もー！」

私は弥生とはしゃいでいると、

ドンッ

誰かにぶつかった。

「ご・・・ごめんなさいッ！」

私は慌てながら振り返りながら謝る。

「いってーな。誰だお前」

そこには不良っぽい男子がいた。

耳にはピアスをして、ズボンはやバイくらい腰パンで、髪の毛は金

髪・・・。

やバイ。

マジ怖い・・・。

どうしよう・・・。

とっさに弥生のほう振り返ると弥生は

ポカーン

としている。

もー！弥生のほかあ （泣；

「き・・・木村真弓」

「気をつけるよ」

男子はそう言って

フイツ

と向こうへ行ってしまった。

・・・助かったあ。

私は気が抜けたのか
ヘタヘタ

と地面に座り込んだ。

気が抜けたまま、放心状態の弥生を起こし、教室へ向かった。

教室に入ると、私は自分の席に座った。

「弥生？大丈夫？？」

弥生は遠くを見つめたまま返事をしない。

「もー！や・よ・い！しっかりしろー！！！！！」

私は必死に弥生の体を揺すった。

「・・・あれ？弥生・・・どうしたんだっけ」

弥生が元に戻った。

「弥生！！よかったあ」

「真弓・・・弥生どうしたんだっけ？」

そっか。さっきのことは覚えてないんだ。

「弥生急に倒れたんだよ」

「え？！」

「もービックリしたよ」

「そっか。迷惑かけてゴメンね。弥生今朝ご飯食べてないから倒れたんだ」

弥生は照れながら舌を出して

二ツ

と笑った。

・・・よかった。

いつもの弥生だ。

私は安心していると、

ガラッ

教室のドアが思いつきり開いた。

・・・さっきの男子だ。

どうしよう。

大丈夫・・・。用があるのは私じゃない！

そう心から願いながら弥生と話す。

弥生は少し引き気味だったが私は気にしない。

・・・気にしたくない。

男子はどんどん私に近づいてくきた。

「木村真弓」

わ・・・私だ。

なんで?!なんで私の名前を呼ぶの?!

「は・・・はい?」

「俺と・・・付き合ってくれ!」

「へ?」

付き合う・・・?

私と??

なんで?

さつき会ったばっかじゃんッ!!!!!!

「ひ・・・一目惚れした・・・」

「ええ?!」

私の声は教室中に響き渡った。

「で・・・でも私あなたのこと何もしらないし・・・」

「じゃあ・・・今からデートしよ」

「はいいい?!」

そう言う男子は私の腕を引っ張りながら学校を出た。

私と男子は町の中をブラブラしていた。

「どこ行きたい?」

「ど・・・どこでもいいです」

なぜか敬語になってしまっ。

「・・・あのさ」

「はい？」

「敬語・・・やめてくれない？」

「え・・・」

「氣い狂う」

「ご・・・ごめん」

私はなんとなく怖くなって下を向いていると、

「・・・俺のこと、怖いかな？」

「え？」

「俺こんな髪だし、こんな格好してるからみんなに怖がられるんだ。

・・・やっぱ怖いよな」

男子はなんとなくさみしい顔をしていた。

・・・そんな格好をするってことは、寂しかったんだね・・・。

「怖く・・・ないよ」

「え？」

「あなたのこと怖くなんかない。見かけただけだよ。心は優しい人だ

よあなたは」

「へへっ・・・。なんか照れるな・・・」

男子は無邪気な笑顔をした。

・・・うわあ。こんな可愛い笑顔なんかするんだあ。

私は一瞬

ドキッ

としてしまった。

・・・なんだろう、この気持ち・・・。

「俺は山本新。・・・あのさ、真弓って呼んでいいかな？」

「え・・・。別にいいよ」

なんか照れちゃうな・・・。

「おれのこと気軽に新って呼んでいいから」

新は耳まで真っ赤にしながら言う。

「うん。分かった」
本当に好きなのかな・・・？
こんなことって有り得ないよ・・・。

次の日、

私は遅刻しそうになったので急いで家を出ると、

「真弓」

聞き覚えのある声だ。

「新?!」

そこには新がいた。

「な・・・なんているの?」

「一緒に行きたかったんだよ・・・」

新は照れながら行く。

「別にいいよ。早く行こ」

私は新の腕を引っ張りながら走った。

チラッ

と新の方を見てみると新は顔を真っ赤にしていた。

私は

ピタッ

と止る。

「真弓・・・?」

「ねえ・・・。手掴まれるのイヤ・・・なの?」

「え?」

「なんか下向いてるし・・・」

「バーカ」

そう言うとき新は私の腕を引っ張って新の額と私の額を

コツンッ

と当てた。

私は驚き、口を開けながら新を見る。

「嬉しすぎて恥ずいんだよッ!!」

新は顔を真っ赤にしながら言った。
私もなぜか顔を真っ赤にしてしまった。

どうして・・・？

どうして私まで赤くなっちゃうの・・・？
分からないよ・・・。

教室に入りすぐに私は弥生の元へ向かった。

「弥生」

「え？真弓？おはよう。どうしたの？」

「あのねえ・・・今日実は・・・」

私は朝の出来事をすべて話した。

弥生はその話を聞いたとたん

ニコッ

と笑った。

「それは！こ・いやで」

「え?!」

「真弓、山本君のこと好きになっただよ!!!」

「う・・・嘘・・・」

「嘘じゃないって!!恋の経験豊富の弥生には分かる」

私が・・・新のことを・・・好き・・・？

嘘だと言いたい・・・。

けど嘘じゃないんだ・・・。

「告白OKしちゃえば？」

「・・・うん」

そうだよね・・・。

新は私のこと好きだって言ってくれたんだもん。

私が新のこと好きならOKしなきゃ。

「じゃあ！弥生が放課後山本君草原に呼び出してあげる」

「ありがとう。弥生」

私はその後の授業、告白のことで頭がいっぱいで先生に怒られてしまった。

放課後、

私は草原にやってきた。

ここで告白をOKするんだ・・・。

ガサッ

誰かが来た。

「真弓・・・？」

新だ。

とうとう来たんだ。

ヤバイ・・・。

心臓がヤバイくらい高鳴ってる・・・。

「呼び出してどうした？」

「あ・・・のね。私・・・」

「うん？」

「・・・好きなの」

「え？」

「新のことが好きなのッ!!」

「ええ?!」

新は顔を真っ赤にして驚いていた。

私も顔を真っ赤にしながら下を向き、目をつぶっていた。

「・・・ありがとう」

「え？」

私は新の顔を見る。

「告白OKしてくれてありがとう」

「うん」

お母さん・・・。お父さん・・・。不良に恋をしてしまった私を許してください。

新・・・、私を好きになってくれてありがとう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2458d/>

不良に恋をする

2011年1月9日03時59分発行